ここがポイント
授業を「実際のコミュニケーションの場」にする

7　外国語（英語）

☆必要な支援は何か？

言語活動においては、どのような支援があれば課題を遂行できるかなどを考慮し、生徒に必要な配慮を行います。例えば話す速度を落としたり、対話の例として教員がやり取りを見せたり、書く活動の前にアウトラインを書かせたりなど、支援は生徒の学習過程のあらゆる段階で与えることが可能です。

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」など、科目の段階が上がるにつれて、生徒が自律的な学習者となるよう、支援の程度を調整します。特に初期段階においては、中学校における学習との接続に留意し、高等学校における学習に円滑に移行できるよう、様々な配慮をしましょう。

☆５領域の指導と評価

外国語科の目標は、
聞くこと(L)、
読むこと(R)、
話すこと[やり取り](SI)、
話すこと[発表](SP)、
書くこと(W)
の5領域別に設定されており、評価も５領域別に行います。

L、Rについてはペーパーテストで評価することができますが、**SI、SP、Wの評価についてはパフォーマンステストの実施が不可欠**です。年間でバランスよく指導と評価ができるよう、効果的な計画作成を心掛けましょう。（右ページ参照）

「言語活動を通して」資質・能力を育成

外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動**及びこれらを結び付けた**統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」つまり、実際に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通して、資質・能力を育成することが求められています。

英語で「聞く／読む／話す／書く」とは、単純に聞いたり読んだりした英語を日本語に置き換えたり、ただ英語が口から出てきたり、書いたりすることではありません。適切な支援を行った上で、英語を使って内容を理解したりメッセージを伝え合ったりする活動＝**言語活動**を授業内で効果的に実施するようにしましょう。

目的や場面、状況などに応じて

外国語科における「知識及び技能」の育成は、「外国語の音声や語彙、文法、言語の働きなどの理解を深める」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる」という「技能」の面とで構成されています。また「思考力、判断力、表現力等」の育成のためには、知識及び技能を活用して、**コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて**、概要や要点、意図などを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う必要があります。

文法など言語材料の指導に当たっては、**「コミュニケーションを支えるもの」**であることを踏まえ、文脈から切り離された知識として理解させるのではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう指導することが必要です。実際の指導においては、実際のコミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような指導を行うようにしましょう。

目標（CAN-DO）から始まる授業づくり
～授業の Backward Design～

CAN-DOリスト

学年	聞くこと	読むこと	話すこと（発表・やり取り）	書くこと
1年	はっきりと話されれば、まとまった説明を聞いて、その概要やキーワードを聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたまとまった英文を読んで、その概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	（発表）前もって準備してあれば、身近なことについて、まとまった英語で話すことができる。 （やり取り）身近なことについて、簡単な英語でやり取りすることができる。	身近なことがらについての説明や意見を、まとまった英文で書くことができる。
2年	はっきりと話されれば、まとまった説明やある程度継続する会話を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたやや長めの英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	（発表）メモを見ながらであれば、読んだことの概要をまとまった英語で話すことができる。 （やり取り）読んだり聞いたりしたことについて、感想・意見を簡単な英語でやり取りすることができる。	読んだり聞いたりしたことについて、その概要や要点を自分の意見を述べながら書くことができる。
3年	さまざまな場面で話される英語を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	さまざまなジャンルのまとまった英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	（発表）メモを見ながらであれば、調べたことについて、まとまった英語で話すことができる。 （やり取り）あるテーマについて、簡単な英語で意見交換を続けることができる。	あるテーマについて、自分の意見をまとまった英文で書くことができる。

※各学校で設定します。必要に応じて見直しましょう。

CAN-DO（学習到達目標）

↓

単元の目標　※５領域別

↓

５領域に関わる言語活動・教材・テスト

・CAN-DOが透けて見えるタスク、練習（目的・ゴールの明確化）
・それぞれの技能に寄与する語彙、文法の指導（理解／表現のための言語知識）

「単元の指導と評価の計画」作成の考え方

CAN-DO（学習到達目標）

L1	L2	L3	L4
①単元目標：…できる(SI)	職業選択について意見を書くことができる(W)	おすすめのレストランを発表することができる(SP)	Eメールを読んで理解することができる(R) 短い講義を聞いて内容を理解できる(L)
②ゴールタスク：…ALTと話しましょう		留学生に、あなたの街のおすすめのレストランを紹介しましょう	メールを読んで必要事項を表にまとめましょう
③単元の授業：…ング スピーキング ライティング ＋**やり取り指導**	リスニング リーディング スピーキング ライティング ＋**意見文指導**	リスニング リーディング スピーキング ライティング ＋**発表指導**	リスニング リーディング スピーキング ライティング ＋**メール表現指…**

①単元目標

①単元目標は、**「年間のCAN-DOが具現化したもの」**になります。つまり、フォーカスしたスキル（一つか二つ）を意識して、５領域別に設定することが必要です。

①単元のテキストタイプやジャンル・トピックに応じて、**その単元でフォーカスするスキル**を決めます。１単元に一つか二つのスキルでもOKですが、年間でバランスよく育成できるようにしましょう。

②ゴールタスク

②ゴールタスクとは、**単元の目標が達成できたかどうかを評価するためのツール**です。生徒の「思考・判断・表現」を評価するためのカギとなるのは、目的・場面・状況の設定です。実際のコミュニケーションを意識したタスクを実施しましょう。

③単元の授業

③単元の授業では、教科書本文を使用した４技能５領域の指導を、バランスよく行います。**教科書本文は４技能５領域の育成のために活用し、単元目標に基づくゴールタスクで確認する**、つまり教科書で練習して、ゴールタスクで応用力の腕試しをさせるという流れにしなければなりません。